

「税は文明の対価である」

福岡市立和白中学校

川上 菜桜

題名にも示したこの言葉は、アメリカの連邦裁判所で長く裁判官を務めたオリバー・ホームズ・ジュニアの言葉です。

私は、今まで「税をなぜ払わなければいけないのか」と疑問を持っていたり、税を払うことで損をしている気持ちになったりしていました。

しかし、私が歩いている道路も、生活を守ってくれている警察や消防も、全て税によって成り立っています。当たり前のように生活できるのは、税のおかげと言っても過言ではありません。

今日、世界中で新型コロナウイルスの影響が広がっており、日本もその影響下にあります。現在、日本では「特別定額給付金制度」が執られています。この給付金もおそらく税によって支えられているのでしょう。日常生活だけでなく、緊急時にも私たちの生活を守ってくれているのが税だということを改めて知ることができました。

日本国憲法には、「国民は、法律の定めるところにより、納税の義務を負ふ」と定められています。税は、法律により決まっているということです。法律は、選挙を通じて選出された国民の代表とも言える国会でつくられます。つまり、税金を国会を通して決定し、私たちはそれを負担しているということです。学校の授業で学び、ニュースなどのメディアを通して目にしてきた税と、税について決める国会の重要性を、今回の作文を通して改めて考えることができました。

私は今、十五歳です。三年後には、十八歳になります。選挙権を持ちます。地方選挙では、身近に私たちの生活を左右する議員を選び、国政選挙では、日本の十年後、二十年後、百年後のこれからを定める議員を選ぶことになります。

税の使い方は、私たちが決めることができるのです。日本の未来を、私たちの生活を、決める税だからこそ、「分からない」「関係ない」と言わず、一人一人が日本の文明をつくっていくという意識が大事なのではないのでしょうか。

「税は文明の対価である」

私が生まれるずっと前に語られたこの言葉は、現在の日本にも当てはまっていると思います。私も、当たり前の日常がたくさんの税によって成り立っていることを当然と思わず、税を納める意味を考えながら、毎日を過ごしていきたいと思います。

参考文献

国税庁—暮らしの中の税（まとめ）

「高校生のための税金入門」小塚真啓編著